

第13回小児ケア勉強会

「自閉症スペクトラムの最新情報

～超早期診断、自閉症支援、ペアレントメンター～」報告



5月25日(金)札幌医科大学にて行われた「第13回小児ケア勉強会」に参加させていただきました。講師は名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科・吉川徹先生です。定員100名を越える多数の方が参加されていました。

早期診断(診断基準更新への動き)・自閉症支援のトレンド、薬物療法、移行支援から家族支援(サポートブックの作成、きょうだい支援、ペアレントメンター)まで、幅広い内容についてお話くださいました。新たな診断基準・DSM-5草稿(2013年刊行予定)や乳児期兆候による超早期診断から早期療育に結び付ける流れなど、アメリカにおける最新の情報は、大変興味深いものでした。

私が特に印象に残ったのは、愛知県自閉症協会の取り組みについてのお話です。「祖父母・父親のための自閉症基礎講座」(父親部主催)やペアレントメンターなどの盛んな活動は、私達もぜひ取り入れてみたいものだと感じました。大変な育児をお父さんや祖父母などの家族と共有することによって、お母さんたちが元気になれる、という視点には、改めて気づきを与えていただいた思いです。(当会定期総会の際にも札幌市自閉症・発達障がい支援センター「おがる」所長・加藤潔先生から「会の活動にお父さんたちを巻き込んで元気になりましょう！」とアドバイスをいただいたばかりでした。)

ご存知の方も多いかと思いますが、ペアレントメンター活動とは発達障がいの子どもを育てた親が一定の研修などを受け、親の立場で相談・啓発活動を行うことです。専門家や相談機関につなぐ役割はもちろんですが「親としての想いを共有・共感できる」ことはピアサポートならではの良さだと思います。こうしたペアレントメンター研修、メンターによる電話相談、茶話会などの直接活動、サポートブック研修、疑似体験などの啓発活動が活発に行われている愛知県自閉症協会の活動紹介には大いに刺激を受けました。

「周りの人たちを巻き込んで子育てをしていくこと＝地域において自閉症の理解者が増えていくこと」だと改めて感じました。吉川先生の温かなお人柄に触れて、たくさんの元気をいただいてまいりました。講師の吉川先生をはじめ企画・運営にあたられました札幌医科大学 保健医療学部・看護学科の皆様、札幌ポプラ会とともに共催にご協力いただきました、札幌市自閉症・発達障がい支援センター おがるの皆様、ありがとうございました。(文責・今西 浩子)

